

国産野菜シェア奪還プロジェクトの取組について

令和7年3月
農林水産省



国産野菜の生産拡大、活用拡大をお考えの皆様へ



国産野菜シェア奪還プロジェクトのご案内



国産野菜のシェア奪還に向けて、**実需者ニーズや産地状況の深掘分析**を行い、これに基づいた**取引先の探索などの新たなビジネスチャンスの創出をサポート**するため、「国産野菜シェア奪還プロジェクト」を立ち上げました。

また、この取り組みを推進するため、「**プロジェクト推進協議会**」を設立し、**会員を募集中**です。

■ このような方におすすめ！

- ✓ 国産野菜の生産拡大に取り組みたい方
- ✓ 取扱量を増加したい方
- ✓ 販売促進を強化したい方
- ✓ DX化により生産・流通・販売をより効率化したい方 など

国産野菜のさらなる生産、活用をお考えの方、関係者の方であればどなたでも参加いただけます。

参加費
無料



■ 協議会員になると…



実需者ニーズ、産地状況などの情報をお届け

プロジェクトで情報収集・分析した、実需者ニーズ、産地状況などの情報を受け取れます。



ジャストフィットなマッチングをコーディネート

分析をもとに、ニーズに合った取引先を紹介するなど、ビジネスの橋渡しをします。
また、プロジェクトで行うマッチングイベントなどに参加できます。



先進的な取組や会員情報などをワンストップで入手

会員向けに、先進的な取組、会員情報、関連施策等の情報を発信します。
また、これらの情報をワンストップで入手できます。



協議会への
会員登録はこちら！

協議会設立シンポジウムの開催

令和6年4月26日に「国産野菜シェア奪還プロジェクト推進協議会設立シンポジウム」を開催し、国産野菜のサプライチェーンに関係する生産者や実需者等、約280名が来場。

坂本農林水産大臣による協議会の設立宣言や農林水産省からの本協議会の進め方、生産者等からの先進事例紹介等を行った。

坂本農林水産大臣による協議会の設立宣言



本日立ち上げる本協議会において、**国産シェア奪還に向けた課題の洗い出しや、生産から販売までのマッチング、国産野菜の需要喚起に取り組み**、農林水産省としてもしっかりと皆様の活動を後押ししていきたいと考えています。

本日の会合が、皆様にとって、**情報交換とネットワーキングの場となり、国産野菜活用と新たなビジネスチャンス創出の第一歩となることを期待**します。

それでは、本日、ここに「国産野菜シェア奪還プロジェクト」を立ち上げるとともに、プロジェクトを推進するための「協議会」の設立を宣言いたします。**皆さん、国産野菜のシェア奪還に向けて、一緒に頑張ってください。**

生産者等からの事例紹介

ブロッコリーの生産・加工流通の取組

(株) アイファーム代表取締役 池谷 伸二 氏 (静岡県浜松市)

地域資源・ICT活用低コスト野菜生産モデル

(有) エーアンドエス代表取締役 大平 貴之 氏 (岡山県笠岡市)

スマートフードチェーンukabis 業務・加工用野菜への活用に向けて

(一社) スマートフードチェーンプラットフォーム推進機構 代表理事 折笠 俊輔 氏

国産やさいの生産者と実需者を結ぶマッチングサイト「ベジマチ」について

(独) 農畜産業振興機構理事 津川 貴久 氏

国産野菜シェア奪還プロジェクト推進協議会の主な活動内容

1



課題の洗い出しと解決策の検討

品目ごとに実需者のニーズ、産地の状況などを分析し、取り組むべき方向性をとりまとめ国産野菜の増産、活用を推進します。

2



生産から販売までの各プレイヤーが連携した取組の推進、サポート

アンケート調査や関係者からのヒアリング等を進め、効果的なマッチング機会を創出し、サプライチェーンの関係者による新たな連携づくりをサポートします。

3



先進事例の横展開と関連情報の共有

農林水産省HPなどにおいて、先進事例や関連施策情報のほか、会員から提供される情報をタイムリーに発信します。

4



国産野菜の需要喚起

831の日シンポジウムや「野菜を食べようプロジェクト」と連携するなどにより、国産野菜の需要喚起を推進します。

5



その他、協議会メンバーからの提案による趣旨に沿う活動

協議会の活動を推進していく中でメンバーから出された提案について必要に応じ取り組みを推進します。

これまでの主な取組

5/22 会員へ品目別ニーズアンケート調査

6月～ アンケートを踏まえた聞き取り調査

9/17 品目別ニーズの公表

- ・ホームページ上で、会員の品目別ニーズを公表
- ・個別マッチングの開始

7/10 先進事例の公表

10/15 会員向けセミナー

- ・冷凍加工・ブランディング

8/21 野菜の日

- ・野菜の日シンポジウムとの連携
- ・冷凍野菜をテーマに開催

国産野菜シェア奪還プロジェクトの今後の進め方について

- 国産野菜シェア奪還プロジェクトの枠組みでは、これまで、生産者・実需者への個別ヒアリングや、機運醸成のためのセミナーの開催などに取り組んできたところ。
- 今後は、**具体的なマッチング（案件形成）を進め、国産転換の取組を拡大していく必要。**

国産野菜シェア奪還プロジェクトの今後の進め方

今後の進め方（現時点における事務局想定）

令和6年 7～8月	<ul style="list-style-type: none">加工・業務用野菜の優良事例公表実需者へのヒアリングに基づいた協議会員内のマッチング野菜の日セミナー
9～10月	<ul style="list-style-type: none">生産及び実需に係る協議会員へのニーズ調査結果公表 ↳ 協議会員内でのマッチングを進める協議会員向けセミナー 第1回（冷凍加工・ブランシング） ※日時未定。詳細は後日公開いたします。 ※協議会員限定のセミナーとなっております。
11月以降 ～ 年内	<ul style="list-style-type: none">品目別イベントの開催（随時） ↳ 会員内外から参加者を募集、形成された案件を報告協議会員向け勉強会<ul style="list-style-type: none">セミナー（テーマ：加工・業務用向け品種等）優良事例紹介プロジェクト進捗報告関連予算説明

国産野菜シェア奪還に向けて、今後は、

- ・ **案件形成**
〔規模感を問わず他の参考となるモデルケースの形成〕
- ・ **案件形成のための座組の形成**
〔たまねぎ、ブロッコリー等の個別品目に着目し、効率的な情報収集・発信が可能な場の活用（例：複数の実需者が集まる意見交換会等）〕
- ・ **情報発信**
〔セミナー等の開催のほか、実需の需要量を生産拡大する余地のある／端境期に出荷できる産地に示すなどして機運を醸成〕

を図っていく方向性。



品目別の輸入量・市場入荷量や栽培歴、主要産地の分布、と新たな産地の可能性等の情報なども参考に、実需ニーズに応えられる**産地の掘り起こし**、**実需ニーズの把握**や、**産地と実需者のマッチング**に努める方針。

